

二瓶盛一町政始動

猪苗代町長選挙と猪苗代町議会議員補欠選挙は6月18日、町内15カ所の投票所で一斉に投票が行われました。

町長選では二瓶盛一氏が初当選、町議補選では新人の山内浩二氏と長友海夢氏、松江克氏の3氏がいずれも初当選しました。

町長選投票率は65%

3期12年を務め、任期満了となった前後公町長の不出馬により、新人4人の争いとなった町長選は、元氣と活氣あふれるまちづくりを訴える二瓶氏が4297票を獲得し、いずれも新人で、元町議の佐瀬真氏(69)＝無所属＝、元町議の佐藤悦夫氏(71)＝無所属＝、会社経営の高橋翔氏(35)＝諸派＝に勝利しました。町議補選は、いずれも新人の山内浩二氏(68)＝無所属＝、長友海夢氏(27)＝無所属＝、松江克氏(68)＝無所属＝の3人が無投票当選しました。当日の有権者数は、1万1176人(男5429人 女5747人)。町長選の投票者数は7264人(男3550人、女3714人)。有効投票数は7156

票。投票率は65・00%(男65・39%、女64・63%)で、前回は1・46%ポ下回り、過去最低となりました。

元氣と活氣あふれるまちに

翌19日には、当選した二瓶盛一氏と山内浩二氏、長友海夢氏、松江克氏に町選挙管理委員会の渡部榮一委員長から当選証書が付与されました。

26日に町役場前で大勢の支持者や町職員に迎えられ初登庁した二瓶町長は、その後就任式に臨み、「職員・町民・議員の皆さんと全方位体制で二丸となって、山積する問題を1ミ_ミでも1マ_マでも前に進めていきたい」とあいさつ。職員を代表して渡部昭副町長が歓迎の言葉を述べました。

住み続けたい町にするために町の未来をみんなで考えよう

4つの柱で町政を担う、二瓶町長に抱負を聞く

私が小さい頃の猪苗代町は、商店街もJR猪苗代駅周辺もとても賑やかで、人が溢れていたように記憶しています。今、一部の地域を除いて、日本全国いたるところで人口減少が問題になっています。少子高齢化も進んでいて、頭を抱えている自治体がほとんどだと思います。猪苗代町も例外ではありません。こうした状況を踏まえ、1万3千人余りの町民の方々の暮らしを守り、「少しでも明るく、元氣の出るまち」「子供たちの笑顔と元氣な声が響き渡るまち」「お年寄りが住んで良かったなど心から思えるようなまち」、そんな町を目指し、私は次の4つの政策方針に基づき、これから行政を執行していきます。

皆さんも「どうせ無理」とあきらめずに、「こうしてみれば」と一緒に考えましょう。

1 まちの未来を担う人材を育みます

こども園、小学校、中学校の建物・環境整備は、ほぼ完了しました。これから

2 豊かな自然を大切にし、活氣あるまちを目指します

農業・観光業・商業・工業をバランス良く発展させるため情報を収集・分析しながら、猪苗代町の豊かな自然・観光資源を生かす知恵を絞り出します。

3 誰もがいつまでも住み続けたいまちにしていきます

「花・星・水・雪のまち」を宣言して、猪苗代町をアピールします。これだけ美しく貴重な天然素材があれば「猪苗代を離れたくない」と思うはずです。

4 町民が安全・安心に暮らせるまちづくりを目指します

少子高齢化による人口減少は、避けては通れない大きな問題です。高齢者に生きがいを見出してもらう方策、安心して子どもたちを育てることができる環境の整備に全力で取り組みます。

初当選を果たした3議員を紹介



まさる 松江 克 議員

Profile
1954年 町内本町生まれ。
68歳。会津高校卒。

少子高齢化が猪苗代町の一番の問題だと思っている。若い人たちがここに住んでみたい、ここで子育てしたい、商売したいと思える魅力あるまちにしていけるように活動していきたい。



ひろし 長友 海夢 議員

Profile
1995年 栃木県小山市生まれ。
27歳。日大文学部卒。

起業支援や誘致により雇用の創出を図る。また、今後地域の担い手となる若い世代を確保して、これから先も猪苗代が町として存続していけるように長期目線で活動していきたい。



こうじ 山内 浩二 議員

Profile
1955年 町内長坂生まれ。
68歳。猪苗代高校卒。

企業を誘致し、働く場所を確保することで若者の定住を図りたい。また、商店街の活性化や空き家対策にも取り組んでいきたい。猪苗代町に住みたくなるまちづくりを目指して活動していきたい。

せいいち 二瓶 盛一町長

Profile
1953年 町内木地小屋生まれ。69歳。会津高校、中央大学経済学部卒。1977年福島民報社に入社。編集局、総務局、事業局、広告局などを歴任し、2013年に専務取締役で退任。退任後、ラジオ福島、民報印刷に勤務。2019年に道の駅猪苗代に入社し、2020年に駅長に就任。

